

平成29年度第1回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 平成29年（2017年）6月26日（月） 午後1時30分～同4時00分

(2) 開催場所 宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室4

(3) 出席者

・景観審議会デザイン協議部会委員

徳尾野部会長、岩井委員、中嶋委員、三谷委員、田野委員、赤澤委員

・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）

吉長課長、志村係長、浜崎職員、山下職員

・事業者

議事① 事業者 阪急電鉄株式会社

設計者 株式会社 日建設計一級建築士事務所

議事② 事業者 宝塚市役所 宝塚市長 中川智子

子ども未来部 子ども育成室 青少年課

代理者 都市整備部 都市整備室 建築営繕課

(4) 議 事

議事① （仮称）宝塚ホテル建設計画（2回目）

議事② 市立山手台小学校地域児童育成会室新築外工事

(5) 傍聴者

議事① なし

議事② なし

2. 会議の要旨

事務局： 本日の審議会（部会）は、委員6名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会 長： 了解しました。審議を開始します。本日の署名委員は順番により、田野委員と赤澤委員です。

会 長： 景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局： 傍聴者はいません。

☆☆☆☆ (仮称)宝塚ホテル建設計画(2回目) ☆☆☆☆

会 長： 前回協議から変更された部分について説明してください。

設計者：

- ・ 前回会議での意見に関連して変更した部分と、近隣の方との協議などにより変更が生じた部分があります。
- ・ 敷地西側の擁壁の位置は、近隣の方との斡旋協議により隣地境界線から少し離す事になりました。これに伴い車路の幅員が狭くなるので、建物の西側の外壁位置も併せて変更しました。
- ・ 花の道に面するガラス屋根の回廊は、ご意見等を参考にして取りやめました。
- ・ 敷地東側の屋外トイレは、河川側に配置変更しました。
- ・ 屋上は広場のような空間としていましたが、近隣との協議により冷却塔置き場を隣地境界から離す事になり、西側部分に移動し、3階に屋根状に設えました。この変更に伴い建物の立面図も変更しました。
- ・ 屋根、外壁の色彩を少し変更しました。本日サンプルを持参しています。
- ・ 植栽は在来種を採用するよう意見がありましたので、建物のイメージと調和することと、メンテナンスを考慮し、樹種の再選定を行いました。
- ・ 前庭部分はレイランディーでしたが、「カイツカイブキを検討してはどうか」とご意見がありましたが、成長が早く暴れやすいという面も考慮し、イチイという刈り込みの効く在来種の中木としました。
- ・ 南側のサブエントランスはオリーブでしたが、モッコクという在来種としました。
- ・ 河川敷沿いの桜並木は、現況と同じソメイヨシノとシラカシを交互に植え、既存の桜並木の景観に常緑樹を入れ、継承する計画としました。
- ・ 「既存の宝塚ホテルで景観としてシンボルとなっているクスノキを、メインエントランス付近に植えてはどうか」というご意見については、メインエントランスは極力明るいイメージとしたいという事と、クスノキは一時に葉を落とすので歩道のメンテナンスを考慮し、シマトネリコとしました。しかし、既存ホテルで馴染みある風景を継承するのは大切だと考え、駐車場付近のメンテナンスし易い部分にクスノキを予定しています。

会 長： では、委員よりご意見やご質問があればお願いします。

会 長： 駐車場は、一般乗用車と大型バスが利用するので、運用を考慮しての結果だと思いますが、この広い駐車場に植栽が一つもないというのはどうかと思います。

委 員： 駐車場の東側のクランクになっている部分は乗降者の溜り場ですか。駐車場の運用について説明してください。

設計者： 普通車が停まる日とバスが停まる日が日替わりになる運用です。半分は普通車、もう半分にはバスが停まるという状況も考えられます。普通車のみ駐車するのであれば歩道に植栽を配置することもできますが、バスを停めますので植栽を設けることができません。駐車場の周囲には生垣や植栽を計画し、東側のトイレ棟の北側には生垣やアイストップになるような植栽を設ける予定です。

委 員： 駐車場東側のカラーアスファルト舗装部分は、バスの乗客の溜り場ですか。

設計者： バスを降りたお客様はそのまま大劇場へ向かわれるので、乗客の溜り場はありません。

委 員： 歩行者用の通路がなぜこんなに広いのですか。

設計者： バスは最大で 30 台停まりますので繰り返しやバスの出入りの軌跡を考慮すると、植栽を配置することは難しいです。

委 員： この部分は歩行者用の通路が広いので、植栽帯に厚みを持たせることが可能だと思います。

設計者： この部分は 3 台程度のタクシー乗り場を想定しており、お客様が並ぶスペースとして設けていますので植栽帯を広げるのは難しいです。

委 員： タクシーはどのルートを通ってこの場所へ来るのですか。

設計者： 花の道側の出入り口を利用する予定です。

委 員： バスが停まっている時は、タクシーは入らないのですか。

設計者： そうです。

委員： 花の道に面して、タクシー用の電光掲示板等が設置されるのですか。

設計者： 何らかの「満車・空車」の表示をする予定です。

事業者： 「満車・空車」の表示は、基本的に普通車に対してのものになると思います。タクシーは到着した順に駐車場に入り、お客様が乗って出て行かれます。

委員： タイミングが悪く、乗り場がタクシーでいっぱいになり、花の道にタクシーが待機することは想定されていないのですか。

事業者： 現在でもタクシーの待機は2台程度で運用できています。無線による呼び出しで対応されているので大丈夫だと思います。

委員： 花の道に待機車が停まることは無いのですか。

事業者： タクシーの待機はないと思います。

会長： タクシー乗り場の運用は理解しましたが、植栽はもう少し増やすことを検討してください。

委員： 外壁の色彩は、パースでは歌劇場よりも白く表現されていますが、ホテルの方が白ということですか。

設計者： 多少は白くなりますが真っ白ではないです。

委員： 前回協議の際はこれほど白くない色彩でした。色相は記載されていませんでしたが明度と彩度からするとこれほど白くはありません。今回提示された色彩は花の道周辺のまちなみからすると少し白すぎるのではないかと気になります。前回協議での色彩は「8.5/4」で、彩度が4あったのに、今回は0.86となっています。大劇場とホテルとは差別化したいという意図はわかりますがこれは白すぎるように感じます。

設計者： そうでしょうか。

委員： 色彩は「8/1.5」くらいが良いと思います。凹凸があり、かなり影がつきま

すが、それを考慮しても少し白すぎると思います。景観形成基準には適合していますが、歌劇場と差がつきすぎるので彩度は1.5くらいに変更することを検討していただきたいと思います。

設計者： 周辺の建物とサンプルを並べ、色彩を検証した写真があります。光の当たり方によってだいぶ印象が異なりますが、歌劇場の足元の部分と比べると、それほど真っ白には見えないと考えております。

委員： 彩度が1より小さい色はどんな色でも色味がなくなります。経年変化で退色はしますが増色はしません。ホテルは経年変化するともっと白くなるので心配です。

設計者： 退色していくというよりは、汚れていく方が大きいと思います。

委員： 川の傍ですし、中国自動車道もあるので、汚れと薄カビで丁度良い頃合いになるかもしれませんが、もう一度検討していただきたいと思います。屋根瓦は非常に良い色だと思います。焼き斑は出ますか。

設計者： 見本のとおり一枚でも焼き斑が出るようなものです。

委員： 景観形成基準を確認するためにも、斑の範囲を示してください。色はすごく綺麗な色だと思います。雨が降ると色が変わりますか。

設計者： はい、水に濡れると少し変わります。

委員： フェンスの色は従前と同じ色彩ですか。

設計者： 深いグリーンです。

委員： マンセル値も記載してください。

設計者： わかりました。

会長： 本体のH型棟の屋根以外は全て金属屋根ですか。

設計者： 花の道に面している部分については洋瓦です。

委員： 洋瓦は素材感があるのでしっとりと見えますが、同じ色を金属板に塗ると少し違和感があるかもしれません。

設計者： 金属板を使用する範囲は慎重に検討いたします。

会長： 洋瓦に焼き斑があるため色味に幅がありますが、金属瓦の色は平均的な色味に合わせるのですか。

設計者： そうです。

委員： 素材感が全く異なるので、金属板の色味を洋瓦の平均的な色味に合わせることが最善策なのかはわかりませんが仕方がないと思います。金属板はできるだけ見えない部分にのみ使用するようお願いいたします。

設計者： わかりました。

委員： タクシーと普通車は混在で駐車場を使用することになるのですか。

事業者： そうです。

委員： 現在も同じ運用ですか。

設計者： 現在はちがいます。

委員： タクシーは花の道側で乗降できるようにした方が良いと思いますが、なぜ駐車場の中まで引き込んでいるのですか。これだけの大面積の駐車場に植栽がこんなに少なくてよいのかを心配しています。本来ならホテルは環境を売りにするものですので、客室が全て川側に面するのが良いと思いますが、今回の計画では、東側の客室は駐車場に面して配置されています。本当にこのような環境で良いのですか。景観上も宿泊される方にもこのような環境は望ましくないと思います。これだけの広さの駐車場に植栽が少なすぎると思いませんか。

設計者： 花の道に沿って出来る範囲で緑地を設けていますし、客室からは手前に駐車場は見えますが、奥には歌劇場が見えますので大丈夫かと思えます。

委員： 緑地が全くないわけではありませんが、少なすぎるということです。

設計者： 植栽があることが、ホテルの環境が良いということではないと思います。

委員： やはり緑が少なすぎます。

設計者： 現況とほぼ同程度の緑量は確保できています。

委員： 先ほどから申し上げているのは、駐車場東側の幅の広いカラーアスファルト舗装の部分はデザインも含めて本当にこれだけの舗装部分が必要なのですかということです。この辺りをもっと工夫できれば植栽をもう少し増やせるとと思います。

事業者： 歌劇場側は、退団されるトップスターのセレモニーをする場所として使用しており、何百人というファンが見送りをするには現況では少し狭いので、今回スペースを確保する計画です。駐車場側は大型バスの通行に支障があるので平らにしておく必要があり、植栽帯を設けることはできていません。また、白線部分はタクシーが三台ほど待機するスペースを確保しています。

委員： パースを見ても駐車場部分の緑が少ないことは明らかで、優しさや潤いがありません。

委員： この敷地の使い方を考えると、タクシーの停車場の際と敷地の東際に列状に緑地を設けてモールにし、その間を溜り空間などにするのも良いと思います。タクシー側の緑地もできるだけ河川際まで緑地とする方が良いです。

ヤマボウシは結構下から枝が伸びますので、日影をつくる目的であれば相当厚みのある木が中央に必要になります。そうすると溜り空間にならないと思いますのでケヤキなどを二列植えた方が良いと思います。タクシーの乗り場の方は、少し間隔を広めにとった方が良いと思います。そのようにした方が後で構造物を設ける必要もなく樹木で影もできますし、緑量も確保でき、歌劇場側の溜り場とのバランスも良くなると思います。ホテルの環境にとっても良くなると思いますので検討してください。

設計者： 運用と合わせて検討させていただきます。

委員： 歌劇場まで続いていた庇がなくなったのはとても嬉しいことです。このプランを見て思うのは「川側は一切人を寄せ付けない」「入口は花の道

正面のここしかない」という設計者の強い意図を感じます。タクシーや大型バスは川側から出入りしているにもかかわらず、人の通行はシャットアウトしているのは非常に強い設計者の意図だと感じます。花の道には「沢山の観光客が来られるので」そういった方もホテルに入っただき、川沿いを歩く多くの市民は、「危険だから」という理由だけで花の道側まで回り正面からしか入れないというのは、川沿いに建つホテルの運用としてどうかと思います。もっと気楽に川沿いからも立ち寄れるホテルにさせていただきたいと思います。「危険なので川沿いの入口は設けません」ということで本当に良いのか疑問を感じます。建築的には後々の運用変更も含め、いかようにも変更できるようにしておかないと、このパターンでしか運用できないというように固定してしまうのは良くないと思います。例えば、河川側のピロティの奥は、将来的にはその辺りから建物内へ入れるような造りにしておく方が良いと思います。川の魅力というものが見直された時に、建物にそのような配慮がしてあれば、柔軟に対応できますので、川を見捨てるような設計はしてはいけないと思います。現状では無理でも将来を含め、様々な変化を受け入れられるよう設計しておくべきです。

会 長： 事実、道頓堀の景観や運用もとても変わりました。そのようなことに対応できるようお願いします。

設計者： 河川側は、現状はホテルの前で通行止めの標識があります。

委 員： 反対側は通行止めではありません。

設計者： 反対側には門扉があります。

委 員： 端の部分に河川側へ降りる階段があり、通行できるようになっています。

事業者： 降りてきた方は、少し先の階段のところまで行かなければホテルに面する通路へは上がりません。一段下に通路があり直接ホテルには入れません。

委 員： 申し上げているのは、運用の問題です。将来に渡ってこの部分の運用が変わらないというものではないと思います。また、通常市民が使用する時間帯には、実際みんなが自由に利用できる空間になっています。

設計者： 何度も申し上げていますが、ここには門扉が二つあり通行できません。

委員： それはわかっています。それは現在の運用であって、今後もずっと同じ運用が続くかどうかはわからないということです

設計者： その運用の変更は我々としてもどうしようもできません。

委員： それもわかっています。ですから「今はこのような状況でも将来的に運用が見直された時に対応できるように設計しておいた方がいいですよ」と申し上げているのです。川を無視するのは良くないと思います。

事業者： 今の状況は理解していただいている上で、「将来対応について考慮するように」という事ですね。

委員： そうです。例えば、ホテルのH型棟の先端、南東角部分をピロティーのようにしておけば将来的に川側からの人の出入りに対応できます。これだけ申し上げましたのでご検討お願いいたします。

設計者： ご指摘の部分はバスの離合があり幅員が必要になるので難しいです。計画している敷地内の横断歩道部分で河川から出入りできるような設えにしております。宿泊客が河川敷をランニングしたいという要望があれば、もしかするとこの部分から出ることができるような運用になるかもしれません。

事業者： 河川側の門扉は、前回片開きだったのを両開きに変更しました。

委員： それでしたら、横断歩道の幅ももう少し広くしていただきたいと思います。

委員： 建物の南東角の屋内部分をピロティー状にするのは難しいですか。

設計者： 建物の中は、現状で用途が一杯なのでピロティーにするのは難しいです。

委員： 武庫川沿いの低木植栽Bの一番西側の部分は、隣地との兼ね合いで低木のみの植栽となっているのですか。

設計者： 隣地から日照について意見があり、低木植栽のみとする計画です。

委員： 例えば、幹を見せるクロマツなど日照に影響のない樹種も隣地へご提案さ

れた上で、樹木を植えるのは不可能ということですか。

設計者： いいえ、その提案はしていません。

委員： クロマツなら、ほぼ日照を遮らずに済むと思うのですが。

設計者： 具体的にご提案はさせていただいておりません。

事業者： 隣地の方は、大きい樹木は根が建物の基礎に影響を及ぼすことなど具体的な指摘がありましたので、樹木は控えさせていただきたいと思います。

委員： 植栽基盤をしっかり取っていただければ大丈夫です。クロマツは直根なので下に伸びます。そのように植栽の特徴などをきちんと説明すれば、ご提案はいくらでもできると思います。一般の方の意見に対して、プロとしての返し方があると思いますのでご検討ください。

次に、川沿いにシラカシとソメイヨシノを植える件ですが、ご説明では常緑樹を入れるのが大きなポイントだという事ですが、意見書では桜の間にクロマツを入れて宝塚らしい景観を検討して欲しいとしています。この件について説明をお願いします。

設計者： 意見書では、「落葉樹だけなので冬はさみしい」という意見が初めにあり、「例えば、宝塚のクロマツなどはどうですか」とご提案をいただいていたので、事業主さんと協議した結果メンテナンスを考慮しシラカシに決まりました。

委員： 具体的にクロマツの何が問題になったのですか。ソメイヨシノは樹形が横方向に楕円型になり、シラカシはとても成長が早く縦に長くなります。横長の楕円形と縦長の木が交互に並ぶランドスケープを目指すということですか。それとも同じ樹形になるように剪定し続けるということですか。

設計者： クロマツは仕立てずに自然樹形にするやり方もありますが、ホテルとしては景観を整えたいという考えです。クロマツが自然樹形のまま暴れた形状の景観を南側に作りたくないという事でこのようになりました。シラカシも成長は早いですが暴れた雰囲気にならない事と、現状も川側はシラカシとソメイヨシノで構成されていますので選定しました。

委員： 横長と縦長が並んで凸凹になるようなことは一般的にはしないと思います
が、本当によろしいのですか。剪定して樹形を整えていかれるということ
ですか。それとも、横に広がったソメイヨシノと縦長のシラカシが交互に植え
られるままになるのですか。

設計者： 横長と縦長が交互に植わっていることを良しとする考えです。

委員： その考えはデザイン的にはどうかと思います。シラカシは成長が早いとい
う点で庭園木として選ばれますが、宝塚らしい雰囲気ありませんし、シラ
カシで景観を造ろうという考え方には少し疑問を感じます。現状、川沿いに
植えられているので同じものを選んだとも言われましたが、それは宝塚らし
いから植えられたものではなく、たまたま同時期に同じ樹種が植えられただ
けです。同じカシであれば、関西ではアラカシを植えるべきです。あえてシ
ラカシを選び、ちぐはぐな樹形で河川沿いの景観を造るのはどうかと思いま
す。河川沿いの景観の考え方は、建物から見た成形的なものではなく、遠景
で見た景観が重要です。クロマツが多少暴れていても全く問題はないと思
います。

設計者： 河川沿いは植栽帯が小さく通路幅員も狭いので、あまり人は通りませんが
クロマツが暴れて目線に枝が張り出すことも懸念しています。

委員： クロマツが暴れる理由を考えれば、幼木ではなく高めのも植えれば、それ
ほど暴れることはありません。

設計者： 高めというのは植え付け時でどの程度のものですか。

委員： 3m以上のものです。少し高級になりますが 5mのものを植えれば暴れる心
配はないと思います。

設計者： 植栽帯の幅が狭いので、植え付け時に 3mのものは将来的なことも考慮する
と難しいです。サクラも比較的小さな 4mほどのものを植え付けする予定です。

委員： この密度でサクラとシラカシを交互に植えると常緑樹が横にあるため、ず
っと陰になり、サクラが枯れると思います。

設計者： 現状も同じ状況で 20 年ほど経過していますので大丈夫だと思います。

委員： 通常は間隔が狭すぎると、まず間違いなくきれいな樹形にならないです。
この間隔できれいな樹形になっているサクラがあるのか確認してください。

事業者： 現状はサクラの間に背の低いシラカシが入っており、剪定が上手くできているのだと思います。サクラは残して欲しいという近隣のご意見もありますし、前回協議での意見も踏まえ、このように決めさせていただきました。

委員： 既存の宝塚ホテルへ行けば、それが見られるという事ですか。

設計者： 既存の宝塚ホテルではなく、計画地である現状の駐車場です。植栽帯の幅も今回の計画とほぼ同じ条件ですし、樹木のピッチもサクラのピッチとしては少し狭いと感じますが、できるだけ既存の風景を継承したいという考えです。

委員： 既存の駐車場の景色を継承することには意味がないと思います。しっかりとこの場所に相応しいものを造ることが必要だと思って意見させていただいています。シラカシは一般的に良く植えられる樹木であり、あえてこの場所に植えて景観を造るというものではないように思います。

設計者： 適当に選んでいる訳ではありません。

委員： 否定して申し訳ないのですが、既存の駐車場の景色を継承するためということだけが理由でシラカシを選定されているのであれば、ちょっと違うと思います。横長、縦長の樹形の樹木がちぐはぐに並ぶのなら、常緑を無理に植えるよりもサクラだけの方がいいです。ソメイヨシノは長寿命化させるために上を切るので枝が横に張りますので、サクラなら上にシュッと伸びるヤマザクラの方が良いと思います。宝塚の河川沿いの景観ではヤマザクラを推奨しています。

設計者： 前回協議の際は、桜並木だけの計画でした。落葉樹だけでは寂しい時に、ダイナミックさを取るか、年間を通した緑量を取るのかは好みにもよるとは思いますが、前のご指摘いただいたので常緑樹でもできるだけ細いものを植えたいと考え、シラカシを選定しました。今年度から委員が変わられたようですので、人によってご意見が違うのかというのが今日ご意見をいただいた感想です。それでしたら、もう一度桜並木だけにする事も視野に入れて検討

させていただきたいと思います。

委員： 前の委員と違う意見を申し上げているのではありません。一番良いのはクロマツもしっかり入れていただくこと。これがベストです。クロマツが無理なら、シラカシを入れるよりましなのはサクラで統一することだと申し上げています。公園やそこらに単に早く育つからという理由でよく植えられる一番だめなシラカシを選択されていますので、それならば桜だけに戻した方がまだましだということです。この協議部会の意見としては何らぶれていないはずです。できることなら、よりベターなご提案を考えていただきたいです。やはり宝塚らしいのはクロマツですからクロマツを植えていただきたいですが、クロマツが無理であれば桜並木でもやむを得ないということです。

委員： クロマツを植えることは検討の余地もないのですか。宝塚の景観づくりの一つとして武庫川沿いにはできるだけクロマツを植えていただくことをお願いしています。対岸から見た景観として、武庫川沿いにクロマツが植わっている景色というのは、昔もそうでしたし、今は乱れてはいますが、もう一度戻していきたいという思いで、他の事業者さんにも毎回お願いし、無理をしてもクロマツを植えていただいている事実があります。この場所は、対岸からかなりのアイポイントになります。ですからクロマツがある河川景観を造り出していく一つの要素になっていただきたいと思うのです。今回計画されている宝塚ホテルのデザインとクロマツは合わないというご意見かもしれませんが、それでも宝塚の武庫川沿い景観としてクロマツを植えることには是非ご協力いただきたいという思いです。また、ヤマザクラは堤防を強めるという意図でもよく使われますので、ソメイヨシノよりも、そういった意味でも良いと思いますし、花の色も色々ですから景観的にも良いと思います。ヤマザクラであればホテルのデザインにも合うと思いますし、所々にクロマツがあっても上手く収まると思います。S字橋や、他のどこから見ても宝塚の河川景観として成り立つものを造っていきたいです。今回違うものを植えられてしまうと、この場所は相当長い間クロマツが途切れてしまうことになりますので、是非お願いします。

事業者： 今現在も途切れています。前回の協議の中で、結果的にあまりクロマツが植えられていないというお話もありましたし。

委員： 今現在クロマツが途切れているので今後もクロマツがなくても仕方ないということではなく、是非ご協力願いたいと思います。また、武庫川は太平洋

側から日本海側までずっと続く桜街道にしようという動きがありますので、これについてもできるだけご協力いただきたいと思います。この敷地だけの事でなく宝塚全体の河川沿いの景観を造っていただきたいと思いますという思いがありますので、その辺りも含めてご検討ください。植栽帯が狭いのも解りますし、この建物にはもっと違うものを植えたいという気持ちもあるとは思いますが、宝塚の景観に配慮願いたいと思いますので検討してください。

委員： エントランス前の植栽も、花の道からの凹みをうまく生かして植栽をデザインし、広がりや表情がでるよう工夫できませんか。建物に垂直で真四角なデザインになっていますが、もし可能であれば建物の両サイドの先端を結ぶ斜めのラインの内側を植栽としてもよいと思います。西側をもう少し前へ出していただくと少し植栽スペースが広がると思います。

設計者： 左側の庭をもう少し花の道側に押し出すという事ですか。

委員： そうです。ここに高木を植える方がデザインとしては良いと思います。シマトネリコを植える計画ですが、この位置は石貼舗装になりますし、シマトネリコは南方のテカテカの葉っぱですし、とても大きくなりますので、エントランス周りのデザインが活かされないと思います。両端にケヤキでもいいですし、ここにクロマツを植えてもかっこいいと思います。もっと建物のデザインと調和するようなものが良いと思います。建物とクロマツを合わせる宝塚の洋館と和の組み合わせは、なかなかイメージがつかないので植えるのはたじろぐのですが、3m間隔あれば大丈夫だと思います。東側は建物から3mほど空間がありますよね。

設計者： はいあります。

委員： コの字型のイチイの一番道側の部分を高木にしてはどうですか。

事業者： シンメトリーでなくなってしまうかもしれませんがいいのですか。

委員： シンメトリーの植栽を建物の壁面に平行配置するのではなく、少しずれるというイメージです。アイアンフェンスもない方がいいと思います。

設計者： 花の道側の一番手前の植栽を張り出すという事ですね。

委員：　そうです。芝生は少しだけ台形になりますが、それほど台形やシンメトリーが意識できるスペースではありませんから大丈夫だと思います。

設計者：　こちらの前庭の部分は消防車が入る計画です。消防から厳しい指導があり、芝生であろうがなんだろうがはしご車が寄りつけるようにとされています。はしご車は、一度頭を振ってバックで寄り付く計画ですので、その邪魔にならない位置でなければ植栽の変更は難しいです。

委員：　消防車はこの位置でないとだめなのですか。

設計者：　この辺りは花の道が石積みで少し立ち上がりがありますので、消防車の軌跡を考慮すると現在の計画でぎりぎりです。

委員：　では植枿は計画の位置のままとし、クロマツを植えるのは無理ですか。

設計者：　エントランス付近は人工地盤ですので、植枿を立ち上げております。

委員：　人工地盤は何メートルくらいですか。2、3mあれば植えられるのですが。

設計者：　とても足りません。人工地盤ということも考慮して樹木を選定しています。

委員：　シマトネリコはどこにでも植えられている木ですので、このような正面のメインアプローチに植えるような木ではなく、違和感を覚えます。

委員：　シマトネリコは、宝塚らしいものではないので、クスノキなど、もう少し涼しげなものを考えられた方がいいのではないですか。

設計者：　メインエントランスなので常緑が好ましいと考えており、北側で少し暗いという事も考慮してシマトネリコを選定しました。

委員：　平たく言いますと、シマトネリコをここに植えると安っぽくなると思います。エントランスなので、この部分はよく検討された方が良いと思います。

設計者：　最近の建物で、シンボルツリーとして植えられている事例もあります。

委員：　ですから、それが良くないと申し上げています。大きくなっても常緑樹の

割には葉が少ないので一般的に使い易く、色んな場所に植えられていて個性がありません。ましてや、植木屋さんの多い宝塚市でそんな一般的な木を植えてしまうのですか。

設計者： 一般的だから良くないという事ですか。

委員： 宝塚らしさの全くない南方系のピカピカの樹木ですし、花の道には植えられていません。このあたりは落葉樹中心で、その中にちょこちょこ常緑のクスノキなども植えられています。クスノキは歴史的な経緯があって無理に植えている所もあります。今回はクスノキでもなく、少し新しい方に寄りすぎている印象を受けます。

高木をコの字に植えたイチイの先端に植えるのは無理ということですね。

設計者： 人工地盤なので無理です。

委員： それならば、この部分で常緑ではなくても良いと思いますので、花の道の景観に合うもの、自然な感じで周囲のサクラやケヤキなどと馴染むエノキなどの宝塚らしい樹種でシンボルになるようなものが良いと思います。できるだけ枝張りが高い物の方が、歩行者目線で見た時に、コの字の部分の広がりを感じられ良いと思います。また、消防車が寄り付くのであればアイアンフェンスは設置しなくてもいいのではないですか。

設計者： この部分は人の出入りを制限したいのでフェンスを設置します。

委員： 建物西側の花の道との間は、パースでは芝生のように見えます。剪定は必要になりますが、イチイも植えられるように思います。エントランスとの連続性があつた方がいいと思います。

設計者： 検討します。

委員： 意見というよりは感想になりますが、建物全体のデザインは、旧宝塚ホテルを踏襲しているという事は明らかですが、全体の設計思想やボリュームの考え方は違うものであるように感じます。既存のホテルは、三角形の大屋根の部分を中心にして様々なボリュームの建物がくっついたデザインで、簡素な様式を用いて全体をボリュームで表現するようなデザインです。今回の設計はデザインとしては旧宝塚ホテルのものですが、ボリュームが非常に大き

なもので、どちらかというのアパルトマン的なものになっているのがとても気になります。というのは、先ほど申し上げたようにボリュームの組み合わせでデザインしていたのに、今回そのボリュームを外してデザインだけを踏襲しているのが非常に平面的な、良い言葉でなくて申し訳ないのですが、ハリボテ的なものようにならないか心配です。例えば、ルスティカの部分をもう少し前に出すとか、デザインを変えないのであればもう少しボリュームを出すとか。アティックのデザインも、もともとはもう少し傾斜の緩い屋根でもう一度腰で折れています。マンサールの窓のところでもう一度折れ、外側に折れてもう少し凹凸感のある屋根でしたので、各層ごとで切り替えをされた方が良いでしょう。ルスティカの部分とアティックの部分はもう少し凹凸感のあるようなボリュームの切り替えがあった方がよいと感じます。

一階の部分だけ花崗岩が貼っている所がありますが、これはどこから来たデザインなのですか。

設計者： 現在のホテルの中庭部分にアーチの窓があり、アーチの窓に沿って外壁に花崗岩が貼ってあります。

委員： 窓に沿って「石貼り」はありますが、壁は吹付で「石貼り」はないですね。

設計者： 壁面自体は「吹付」で、窓の周りにポイントで石が貼ってある状態です。このようなデザインを回廊のような部分に継承しています。

委員： 建物東側の駐車場に面する部分は中央部分が出っ張っていますので、垂直方向の凹凸感が出てくると思いますが、層ごとのボリュームはあまり感じられず平面的に見えてしまうのではないかと思います。一番上の瓦屋根のデザインもかなり切り立ったマンサールで、現在のホテルはもう一度折れていてもう少し奥行きのある窓だったので表情があったと記憶しています。特にルスティカのグランドフロア部分の仕上げがこれでいいのかと疑問に思っており、ペタッと平面的になってしまう事が心配です。

会長： ディティールを決める際には、立体感や陰影を意識してデザインを決めていただければと思います。いろいろな意見が出ましたが、前向きに検討していただきたいと思います。

会長： それでは、議事1については、これで協議を終了とします。

☆☆☆ 市立山手台小学校地域児童育成会室新築外工事 ☆☆☆

会 長： 事務局からおおよその経過は聞きました。この場で意見を申し上げても地元の方と再協議することはできないのですか。

事業者： 地域の方へは昨年、三回ほど説明会をさせていただきました。青少年課としては子どもたちの貴重な校庭をお借りする立場ですので、丁寧なご説明を心がけてきました。メインモールをできるだけ残したいというご提案をしましたが、地域の思いとしては「校庭はみんなのもので、できるだけ校庭を広く残す方法を考えて欲しい」という要望でした。協議は「建物をどこに配置するのか」という議論に終始する結果となりました。子供たちにとってはメインモールも大変貴重な財産の一つであることもご説明させていただきましたが、校庭も地域の子どもたちのために残したい環境であるというご意見で、建物配置は最終的には現在の計画地に決まりました。メインモールの必要性や本来樹木は何のためにあったのか、景観も大切だという事も十分に説明させていただきましたが、地域の総意としてこのようなかたちに決まりました。

会 長： この建物は学童保育で使用されるという事ですが、内部のプランを見ると二つに分けて使えるように、トイレなども 2 セットずつありますがどのように運用されるのですか。

事業者： 地域児童育成会と放課後児童クラブとして使用します。約 40 人を 1 クラスとし、現在は 80 人ですが、今後 140 人ほどまでは需要が伸びる予想があり、3 教室必要になります。40 人クラスが 2 クラスでの運用と、第三教室という考えで 60 人の教室を計画しています。将来的に半分に分けて使用できるよう可動式の壁を設置し、この建物で 140 人が快適に暮らせるよう計画しています。夏休みや土曜日は、一日の大半をここで過ごしますのでトイレの環境や、保健室のような休憩室や、シャワーも設置しています。

「グラウンド北側に横長に配置して欲しい」という地域の要望でしたが、その配置ですとあまりにもメインモールの木に影響があるので、検討した結果このような L 字の建物になりました。校長先生や地域の方は運動会の事をとて心配されており、「運動会は地域のシンボリックな行事であるため、この建物が出来ただけトラックに影響の無いように」という要望でした。

会 長： トラックの配置が、資料によって異なりますが、本来の位置はどこですか。

事業者： 新築当初の設計では、トラックはグラウンドの中央に配置されていましたが、実際は少し西側にトラックが配置されて運用されています。

会 長： ものすごく余裕があるように見えるのですが、これでも狭いのですか。

事業者： 市内の小学校の中ではかなり広い校庭ですが「校庭を狭くしないように」という地域の要望を受け止めるかたちで建物配置を決定しました。

会 長： 藤棚は、現状のものを再利用されるのですか。

事業者： 移設して利用します。

委 員： 藤も棚も両方再利用するのですか。

事業者： 棚だけ再利用します。夏の暑い時期には庇も必要ですので藤棚は移設しますが、再度藤を植えるのかは学校に委ねることになります。何か別のツル植物を植えていただいてもいいと思っています。

委 員： 最初に地域の方に説明された時には、トラックがグラウンドの中央に配置された図面で協議され、最後にトラックがもっと西側にあることがわかったのですか。トラックが中央に配置されている図を見ると、今回の建設で、いかにも狭くなるように見えてしまうので、初めから本来の位置にトラックがある図面で協議されていれば、建物を建てた後も東側にはかなり余裕があることを理解していただけたのではないかと思います。

事業者： 7月の協議の際には、グラウンド中央にトラックが配置されている図面を使用していましたが、11月の協議では現状のトラック位置を示し、建物の建設による影響はそれほどないことを説明しました。

会 長： クラブ室から直接グラウンドへ出るという使い方はされないのですか。

事業者： 防災上、2方向への避難経路が必要ですので、メインモール側とグラウンド側の両方へ出られる設計です。L型の中央部分からグラウンドへ出られます。

子どもたちがグラウンドで遊ぶ事もありますので、わざわざ遠回りしないでも外へ出られるよう、中央部にテラスのような出入口を設ける予定です。

委員： この建物は庇が小さいため、春から秋は過ごしにくい環境になるように思います。藤棚は建物から少し離れた南側に配置されていますが、藤も切ってしまうのであれば、建物に沿って配置し、建物と一体的に使用できるよう工夫された方が良くと思います。グラウンドに面して日影になる部分をもう少し造ってあげた方が利用勝手が良いと思います。

事業者： 日頃の子供の使い勝手を考慮し、検討したいと思います。

委員： 現在の花壇の位置ぎりぎりに建物が配置されていますので、もともとある高木の植柵の分は何かしら植えても通行上は支障がないと思います。建物の際はですから高木は難しいですが、基盤をきちんと造っておけば、中木程度は植えられます。また、80cm角程度のコンテナなどを置いても良いと思います。建物際に植栽帯があれば、小さいですが子供達も世話ができるような畑として使用することも可能だと思いますので検討してください。

設計者： 学校側と協議のうえ検討します。

委員： なぜ2階建てにされなかったのですか。

事業者： 検討しましたが、障がいのある子どもたちへの対応としてエレベーターを設置する必要がありますので、コスト面で断念しました。

委員： この計画は、景観上一番してはいけないような事をされていますが、本当にこのようなことをしてもいいのでしょうか。校長先生も地域の方もみなさんがこの計画が良いというご意見なのですか。不見識な人が多いように感じます。今まで何十年も自分たちが使ってきた、ましてやメインの入口をバツサリ潰して建物を建てるという計画はとても考えられません。この正門に愛着のある方もいらっしゃると思うのですが。

会長： 今ここにいる委員が皆同じように感じていると思っていますが、仕方がないことなのですね。できる範囲で景観上の配慮をしていただきたいと思います。

グラウンドに面するスタンド状のものは、運動会の時などにベンチに使われた

りしているのですか。

事業者：　そうです。この角地は藤棚のところで食事をされたり、スタンドに座って食事をされたりしています。運動会でゆっくりとくつろぐスペースとして使用されていまして、我々としても、本当にここまでしてしまっているのだからかと感じました。

会　長：　景観とは直接関係ないことにはなりますが、L字型の建物を活かし、中央部の窪みをテラス状にされると、子供達にとって快適な空間になるように思います。それと、メインモールの途中に新たに門扉ができるのですか。

事業者：　東門を壊して新たに門扉を設けるのではなく、電力会社との契約の関係上、施設を分ける必要があり、この部分に門扉が必要になりました。常時開いた状態で使用することになるのですが、契約上必要なので設置しています。

会　長：　見た目もきれいなものではありませんし、仮設でしたらチェーンやロープなどでも良いのではないですか。

委　員：　地中落とし込みのポールで、チェーンを掛ける程度では駄目なのですか。

事業者：　落とし込みのポールを予定していましたが、関西電力との協議で、計画の門扉でなければ別契約として認められないと言われ、このかたちになりました。

委　員：　グラウンドに面するフェンスは既存のままですか。

事業者：　現状のままです。

委　員：　フェンスは、敷地外へボールが飛んで行かないよう設置しているのですか。

事業者：　そうです。

委　員：　この施設にボールが飛んでくることはないのですか。

事業者：　グラウンドに面する部分に約4mの防球ネットフェンスを設置します。

会　長：　グラウンド側は目の前にネットがあり、囲まれていて出入りできないのですか。

事業者： 出入口付近はカーテン式になっています。

委員： この施設はこの学校以外の子どもも利用されるのですか。

事業者： この学校の子どもたちだけです。

委員： 放課後の長い時間過ごす場所なので、いい環境を造ってあげたいですね。

委員： 現状の計画では、屋根の付いた空間があるというだけで、潤いや優しさが感じられません。入口も壁の途中に突然扉があり、そっけない玄関に感じます。夏休みなど一日中過ごす場所ですからもう少し潤いがあるといいと思います。

委員： 玄関に庇がないと、雨の日には使い勝手が悪いので玄関の上に綺麗に庇を設けた方が良くと思います。

事業者： 玄関は二つありますが、玄関と玄関を繋ぐ形で出幅約 1.4mの庇が付きます。

事業者： 子どもたちを整列させてから下校させるため、雨に濡れずに整列させる空間が必要なので庇は設けています。

会長： 夏場には直射日光が入りますので、建物の南面にも庇をつけることはできませんか。

事業者： 検討します。

委員： グランドに設置するネットの位置は決まっているのですか。

事業者： 地域からできるだけ校庭を広く使えるようにと要望がありますので、建物に近い位置に設置します。

委員： L字型の建物の中央の三角形の部分全てをテラスにすると思います。

事業者： 「できるだけグランド側に張り出さないように」という要望ですので難しいです。

委員： 物置の幅くらいだけでもテラス状にすれば、快適な空間になると思います。

事業者： 即答はできませんが、子供達にとって快適な空間になるよう検討します。

委員： 運動会は運用で何とかなると思いますが、毎日百人前後の子どもたちが何時間も過ごす場所が、この環境でいいのかということの方が疑問です。

事業者： 地域の方へは、140人の子供達が快適に過ごせる施設となるようご説明してきましたが、地域の思いとしては「800人の生徒の内140人だけが使用する施設の為に校庭が狭くなるのは困る」というご意見でした。我々としては、これは多数決で決める物ではなく、市の施策として必要な建物ですので、快適な環境を確保したいという思いをお伝えし、結果的に折り合いが合ったのが今回の計画になります。

地域の方を大変悩ませてしまいました。校庭に建てること自体、決して手を挙げて賛成という状況ではないですが、この場所しかなくやむを得ないという事でこの場所に決まりました。

会長： この協議での意見が今後の設計にどれだけ反映されるかわかりませんが、もし地域の方にお話できる機会があれば、こういった意見が出て、少しでも子供達にとって良い環境になるよう、今回の協議の議事録などもご利用いただいて説明していただければと思います。

委員： 立派な施設は難しいとしても、小さな植物でもよいので植物を育てられる空間を設けるなど、小さなことでよいので、お家のようにつろげる空間にしていきたいです。グラウンドは、野球やサッカーのクラブが優先的に使用されるので、育成会の子供たちは遠慮して使うと思います。自由に利用できる自分たちの庭のような部分が少しでもあればいいと思います。

事業者： 家庭的保育がテーマだと思っております。子どもたちの放課後、土曜日、暑い夏、寒い冬も快適に過ごせる環境づくりを進めていきたいと思っています。

委員： 快適な環境にするためには、廊下の先端が外部と繋がっていれば風も入りますので、廊下の先を閉じない方がよいと思います。また、外部物置の配置も運動場に面する一番良い場所にあり、勿体なく感じます。

委員： 屋外空間のデザインは、いろいろな障がいを持った方や子供たちのための環

境デザインがあります。例えば、今回のようなケースでも様々な説得の方法もあります。住民参加型の設計についてのノウハウも有ります。子どもたちの為にも少しでも良い環境を造りたいので、もしよろしければ今後、地元協議の時からでも呼んでいただければお手伝いできることがあると思います。

会 長： 議事2については、これで協議を終了とします。